IT時事ネタキーワード「これが気になる！」（第21回）

Google Home日本上陸。スマホの次は「スマートスピーカー」

2017.10.19

スマートスピーカーとは、マイクに向かって話しかけると、音楽を再生したり、ニュース、天気、スケジュールなどの情報を読み上げたり、質問に答えたりする「賢い（スマートな）スピーカー」のこと。家電やホームオートメーションの操作、通販サイトでの商品の購入、ピザの注文やタクシーの配車なども行える。

米国では、2014年にアマゾンが「Amazon Echo」を発売したのを皮切りに、グーグルやアップル、マイクロソフトといった世界をけん引するIT各社が、自社の音声アシスタントを搭載したスマートスピーカーを、発売もしくは開発中だ。そのスマートスピーカーが今秋、いよいよ我が国にも上陸した。

AIを備えたスピーカー



米アマゾンの「Amazon Echo」の商品ページ

無線通信機能とAI音声アシスタント機能を備えたスマートスピーカーは「ホームアシスタント」とも呼ばれる。声を掛けると、秘書のようにさまざまなサポートをしてくれる。米国ではすでに1000万台以上を売り上げ、約1割の家庭が所有するという。

基本的に、SiriやGoogleアシスタント、Cortanaなど、スマホやパソコンで親しみのある音声アシスタントがスピーカーに入っていると思えば分かりやすい。スピーカーに向かって「OK、グーグル！」と話しかけ、続けて「明日の天気は？」「〇〇について教えて」「今日のスケジュールは？」と質問する。すると質問に答えてくれたり、ジャンルやアーティスト、曲名などを言うことで音楽を流してくれたりする。アラーム設定や予定の通知はもちろん、家電や照明、シャッターなどの操作を行ったり、商品を購入したり、タクシーを配車したりなども可能。家族みんなが重宝しそうだ。

スマホの次!? スマートスピーカー… 続きを読む